

独 標

西東京市立ひばりが丘中学校

第1学年

第12号

令和5年6月9日発行

運動会の作文

「心の中で鳴ったピストル」

1年A組

吹奏楽部の演奏が始まった。楽しみだった運動会、自分が運動会を通じて感じたことは2つある。

一つは、努力することの大切さだ。優勝できた今回の運動会のために、いろんな練習をたくさんした。自分は、体育行事委員だったから、自分たちが中心となり、みんなを引っ張らなければいけない場面も多かった。だが、みんなも努力してついてきてくれた。だから、体育行事委員も努力をしてみんなをまとめることができた。みんなの努力があったからこそ、この「優勝」という大きな結果になったと思う。

もう一つは、周りの方々の感謝だ。見に来てくれた親、先生方、いろんな準備やサポートをしてくれた様々な委員会。支えてくれる人がいたからこそ運動会だと思った。自分は今回、初めて支える側を体育行事委員という立場で経験した。練習では「声が小さい!」「足を上げる!」などの自分にとっては厳しい声も受けたが、後にみんなが体育行事委員に頼ってくれるようになった。「頑張ろう」と思った。今している何かは、誰かが支えてくれているからだ。これが一番、気付かされたことかもしれない。

この運動会の経験を生かさなければ意味がない。次は自分たちがひばり中の伝統を受け継いでいく。自分の中で、今、ピストルが、天高く鳴り響いた気がした。

「尊敬、優勝、笑顔、先輩」

1年A組

私はこの運動会で先輩から学んだ姿と、何があっても諦めない気持ちが大切だと思いました。

中学生になって初めての行事を終えた今、思い返して頭に浮かぶのは、輝いている先輩の姿と頑張っていて良かったという気持ちです。

1年生が行った競技は、いかだ流しと全員リレー。全員リレーは全学年・IJ学級共に共通している種目で、いかだ流しは2年生も行いました。同じ競技でもたった1年、2年違うだけで迫力や行動の速さも変わり、流石先輩だと思いました。

そんな先輩の背中を見た時、私は学び方次第で良くも悪くも先輩方の真似をできてしまうと思いました。だから先輩の尊敬すべき様々な点を良い方向に生かしていきたいです。それは私たちがすぐにできる学びへのお礼の態度だと思いました。

運動会の裏には委員会が関わっていたり、約4時間のために何日も準備を重ねるなど壮大な行事でした。体育行事委員を中心に、各学級で作戦を練って練習するところから始まり、意見やアドバイスを取り入れたり、全員が全力でもっている力を出すという役割を、責任をもって果たせるように、優勝に向かって突き進んできました。他のクラスに勝つことが全てではありませんが、クラス全員でとった優勝はやはり嬉しいです。苦勞の先にあるのは笑顔です。その笑顔にたどり着くまでに、大切なのは諦めないことだと思います。

私はこの運動会で先輩から学んだことと諦めないことを大切にしていきたいです。そして来年は頑張っていて良かったと胸を張って言える先輩になります。

